

川根本町 伝統文化交流会

川根本町には、国の重要無形民俗文化財の指定を受けた「徳山の盆踊」を筆頭に、県の無形民俗文化財の指定を受けている「徳山神楽」「田代神楽」「梅津神楽」のほか、年間50回程度の公演をおこなっている「赤石太鼓」など、地域に伝わる様々な伝統芸能があります。

しかし、少子高齢化等の影響から年々これらの担い手(後継者)は減り、存続が危ぶまれる状況にあります。町では「地域の宝」である伝統芸能を後世に受け継いでいくことを目的に「川根本町伝統文化伝承館」時愛(ときあ)を今年2月に整備しました。

このたび、町内の伝統文化保存会を中心に、近隣市町で活動している団体に呼びかけを行い、地域の伝統芸能の継承および発展につなげていくことを目的とした交流会を開催することを提案。

静岡県文化プログラムの採択を受け、9月7日(土)に「川根本町伝統文化交流会」として盛大に開催されました。

赤石太鼓

地域住民の連帯感と郷土愛を築くとともに、町の活性化と新たなコミュニティづくりを目的として昭和57年に創設されました。

「赤石太鼓保存会」として町内外から人気を集め、年間50回を数える公演実績があります。また、平成10年に川根高校で郷土芸能部が立ち上がるなど、若い世代への普及活動も積極的に行われています。



はいばら太鼓

はいばら太鼓保存会は、牧之原市(旧榛原町)の郷土芸能を伝承することを目的に、昭和51年に結成されました。和太鼓による地域振興や、和太鼓文化の伝承などを目的に地元を中心に活動し、現在はメンバーによる曲作りや後継者育成にも積極的に取り組んでいます。

楽しいメンバーが揃い、太鼓にかける情熱も熱く、大人も子どもも和太鼓の「魅力」と「迫力」を届けようと日々精進しています。



徳山の盆踊

徳山の浅間神社で毎年8月15日に奉納されており、鹿ん舞、ヒヤイ踊り、狂言と3つの異なった演目が行われることが特長。

昭和62年、この盆踊りの形態が古歌舞伎踊りの初期の仕組みを伝承するもので、これに動物仮装の風流(ふりゆう)が添えられているなど地域的特色にも富んでおり重要だとされ、国の重要無形民俗文化財として指定を受けました。



笹間神楽

笹間神楽は島田市川根町の笹間上地区に伝えられる神楽で、動作が大きくダイナミックな舞が特長です。

笹間神楽は江戸時代中期に伊勢の外宮で学んだ氏が持ち帰ったとする説と、東の静岡市黒俣地区から伝わったとする二つの説があり、複数の舞の形があります。戦後の混乱期に消滅しかけていましたが、昭和43年に笹間神楽保存会を設立して復活、地域の保存会に加えて地元の小中学生も活動に参加するなど保存伝承の動きが活発になっています。



徳山神楽

徳山神楽は、江戸時代前期に定着し、代々氏子に伝えられてきたものと言われている。神楽歌を記した文書で現在残っている最も古いものは、延宝2年(1674)のものである。

神楽式は、修祓・降神式から始まり、昇神式まで一貫した儀式が行われ、「神の舞」「倭舞(やまとまい)」など15の舞が舞われます。創始の時代は明らかではありませんが、系統の上からは伊勢流の神楽といわれています。



梅津神楽

梅津神楽は、昭和47年に県の無形民俗文化財に指定されました。創始年代はつまびらかではありませんが、文明年間に筑地清右衛門菅原重常という人物が地名を梅津と改め氏神を祀り、自ら神主の職について神楽を奉納し梅津神楽と名付けたのがはじまりとされています。

奉納は若宮神社とこだま石神社、2つの神社の氏子らが一年交代で演じてきました。が、現在では梅津神楽保存会が中心となって、伝統の神楽の継承に努めています。



志太榛原地域を中心として3つの太鼓、国指定重要無形民俗文化財の徳山の盆踊、4つの神楽が集まり、演目を披露しました。また、川根本町文化協会からも「コーラスベルテ」と「話楽座」がその活動を披露しました。会場にはおよそ600人の観覧者が訪れ、貴重な伝統芸能の共演を楽しみました。

～静岡県文化プログラム～
2020年のオリンピック・パラリンピック東京大会に向け、オリンピック憲章で開催が定められた「文化プログラム」が、日本全国で展開されます。静岡県文化プログラム推進委員会は、文化・芸術振興やバンクな・芸術による地域・社会課題対応を目指して、様々な団体などとの協働による取り組みをすすめています。

ADVANCED PROGRAM FOR ARTS AND CULTURE SHIZUOKA 静岡県文化プログラム

井川神楽

安倍川流域山間部と大井川左岸山間部に数多く伝承されている神楽は現在約30ヶ所で保存伝承されています。

井川神楽は、伝来の過程やその地域での交流の中で変化していき、地域ならではの特徴が生まれ、浅間神社が中心となって交流が行われた結果、今の形ができたと考えられます。

井川神楽は、大井川・安倍川流域の中でも最も古い1617年の奉納記録が残る伝統芸能で、古くから重要な娯楽であり、請願成就の真剣なる祈願でもあったとされています。

